

☆季節の野草だより

この時期の野草で楽しみなのは、何と要ってもヤマユリだ。ヤマユリはユリ科の多年生植物だが日本特産のユリだそうで大輪の白い花はよく目立ち、来園者を楽しませてくれる。助川山では最近、ヤマユリは道路沿えで見られるが、やまゆりの丘など林の中ではほとんど見かけなくなってしまう。

食用や薬用としても利用されるとのことだが、乱獲するほど沢山生育していないので花を楽しむにはまだまだ生育数が足りない。まずは、採取はしないでユリの数を増やしたいものだ。管理道路沿えに咲くヤマユリが多く、どうしても花を取ったり、ユリ根を掘り起こしたりされる。

また、気になるのは野草の数が年々減少しているように感じられることだ。オカトラオ、ネジバナやミヤコグサ等助川山の随所でよく見られた野草が少なくなっているように思う。特に乱獲が原因とばかりは思えないが、全体的に花が楽しめる野草が少なくなっていないか気になるところだ。



ダイコンソウ オカトラノオ ヤマユリ



オオバギボウシ ムツクグサ ミヤコグサ ネジバナ ヒメヤブランハキダメギク ウツボグサ ドクダミ

☆季節の樹木だより

暑い夏に助川山に入り、ネイチャーセンターから目の前の林を眺めると涼しさを感じる事が出来る。この時期、樹木の花はあまり見受けないがネイチャーセンターのベランダからはアカメガシワが見られた。アカメガシワの新芽はやや鮮紅色で樹木の花の少ない時期には良く目立つ。名前の由来も、新芽が鮮紅色なことや葉がカシワのように大きくなることから名付けられたと云われる。カシワの語源は、“葉を食べる物を蒸すときに使ったことから”カシ(炊)ぐ葉”が転訛したものと云われ、古くから生活に密着していた樹木と思われ、カシワが生育してしない地域では、この木の葉をカシワの代用として柏餅を作ったとあるが、カシワに比べやや葉が小さいような感じがする。カシワの葉は30cmにもなるようだが、アカメガシワの葉はそこまでの大きさには見えないがどうだろうか。



リョウブ イタチハギ アカメガシワ コゴメウツギ アジサイ

☆野鳥の巣

6月初めにビオトープの除草作業をした時、ミズバショウの周りに植えているアジサイの枝に野鳥の巣が作られているのを見つけたが巣の中にはブルーの玉子が数個産み付けられていた。現地ではどんな野鳥の玉子かは判明しなかったが、帰って調べてみると青色の玉子はツグミではないかと思われる。ツグミの玉子もネットで調べてみるといろいろな色の玉子があるようだが、その中にブルーの玉子もあったのでツグミではないかと思われる。親鳥は人間が巣に近づくと警戒して近くに寄ってくるがそれらしき野鳥は見られなかった。何れにしても巣は悪戯しないでそのままにしておいたので、無事に雛が孵ったのではないかとと思われる。



野鳥の巣と玉子

(野草班 鈴木)